

意見陳述

原告 赤 寄 澄 男

1 私は、原告の赤寄澄男です。昭和24年に、鹿児島県出水郡長島町川床に生まれました。現在、64歳です。4人きょうだいで、姉、妹、弟がいました。

私は、昭和40年に中学を卒業するまで、川床で暮らしていました。

川床は旧東町にあるので、特措法のいわゆる対象地域にあたります。

2 私の当時の生活をお話します。

私の家は、川床の赤崎地区というところにあります。家は海の入り江に面しており、歩いて1分もかからずに海に出ることができます。入り江を出れば、水俣市や出水市を海の向こうに見ることができます。

私の父は農業をしていましたが、週に2、3回ほど、叔父から借りた小船に乗って、近くの海で一本釣りをしていました。アジやサバが多かったと思います。釣った魚は、ほとんど自分の家で食べていました。

私も、小学校高学年のころから、父と一緒によく釣りに出かけていました。旧東町沖から水俣沖あたりの海で一本釣りをしていました。海に出ると、よく、水面にたくさんのカタクチイワシが浮いていました。弱っているのが、簡単に網ですくえました。それを持って帰って食べていました。

ほかにも、父が網元に網子として働きに出て魚をもらって帰ってきたり、同じ地区の親戚の漁師から魚をもらったり、行商人から買ったりしていました。

おかげで、私の家の食卓には、いつもたくさんの魚がありました。肉なんて、ほとんど食べたことがありませんでした。

3 私は、中学を卒業してからは、就職で東京や京都に行きました。京都で大工に

なり、町屋大工として働いていました。寺を直す仕事もあり、収入は人より多くもらっていました。

昭和49年ころ、両親が実家の農業を手伝ってほしいと言うので、また川床に帰ってきました。ただ、私は自分の仕事にやりがいを感じていましたので、主に大工として働いていました。

昭和50年ころには、月に40万円ほどの収入をもらうようになり、私は自分の仕事に自信をもっていました。

ところが、50歳ころから、手足がしびれたりつったりするようになりました。

手先に力が入らなくなり、大工の仕事をしているときに、金づちをよく地面に落とすようになりました。自分の足に落としてしまったこともあります。

また、大工の仕事で、墨付けという作業があります。木材や材料のどこを切るか、墨で印をつける作業で、大工にとってはとても重要な仕事です。しかし、手が震えるようになってしまい、うまく墨さしで線を引くことができなくなりました。

足元もふらつくようになり、家の棟上げの際に、梁や桁に登るとき、ふらついて何度も危ない思いをしました。

私は、どうしてこんなに体の調子が悪いんだろうと思い悩みました。まさか、自分が水俣病であるとは思いませんでした。当時、子どもらはまだ小学生、中学生だったので、まだまだ金のいる時期でした。私は、家族のために必死で仕事をしました。

しかし、私への仕事の依頼も少なくなってしまい、収入は半分に減ってしまいました。とても悔しかったです。

私は、ずっと大工の仕事が続けたかったのですが、体が思うようにならず、どうしても辛くて、60歳のときに大工の仕事は全てやめました。

今では、左足のひざから下が特にしびれがひどく、力が入りません。

多いときは毎晩、足がつります。とても痛くて、夜中に目が覚めます。

わずかな段差でもつまづいて転げそうになります。畳のへりによくつまづくので、家の中でも注意して歩かないといけません。

耳鳴りもひどく、キーンという高い音が10分くらい続きます。

においや味が分かりにくかったり、気がつかないうちに口からよだれが出ていることもあります。

- 4 3年前に、役場の放送で、川床でも水俣病特措法の申請を受け付けていると知りました。私は、もしかして体がおかしいのは水俣病かもしれないと思って、特措法に申請しました。

鹿児島県による公的検診も受けました。5分ほどの簡単なものに感じました。しかし、結果は、水俣病の症状が認められないということで非該当でした。

私の住んでいる場所は、水俣病特措法のいわゆる「対象地域」にあたります。ですので、私の地区は、私の親戚を始め、ほとんどの人が特措法の一時金や手帳をもらっています。私も、同じ生活をし、同じ魚を食べてきました。

なのに、どうして私だけが認めてもらえないのか、理解できません。私の長年にわたる苦労が、たった1度の、5分程度の検診で却下されるなんて、とても信じられません。

もう一度、きちんと検診をしてほしいと県に再検討の申立てをしました。しかし、県は受け付けてくれませんでした。

もう、私には、裁判で認めてもらうしか方法がありません。

- 5 裁判所におかれましては、私をはじめ、不当に切り捨てられた被害者の声をぜひ聴いていただきたいと思います。